



# 駒本の力

駒本小学校(家)  
教育活動紹介便り  
校長 田中 克昌  
NO. 5  
平成 27 年 6 月 15

## 4つの言葉を大切に、1「はい」

4月から継続してきた、朝の校門での居ずまいを正した「おはようございます」の挨拶、校舎内での「こんにちは」は、子どもたちの努力、教員の指導によって大きな成果を見えています。その成果の上に立って現在全学級で取り組んでいることが、「はい」「ありがとうございます」「お願いします」「ごめんなさい」の4つの言葉の指導です。この4つの言葉もほぼ挨拶の言葉だととらえています。この4つの言葉が学校中のできるようになると、学校の雰囲気は大きく変わってきます。といっても、駒本の子の多くは、すでに身に付けているようです。なぜ、この4つの言葉を大切にしているのかについて説明します。

### 1. 「はい」

名前を呼ばれたら、「はい」と元気よく返事をする事です。これは、全ての学びの基本となります。教員も全校朝会で、週番の先生として名前を呼ばれたら、手を挙げて、元気よく「はい」と返事をしています。大人が率先して見本を見せることがとても大切です。

子どもたちへの呼名での「はい」は、学校では極々当たり前のことなのですが、全員ができていいのかというと必ずしもそうではないようです。これは、100%でありたいと思っています。

「はい」という返事は、呼名の時だけではありません。先生方は指示や説明をした後に、「分かりましたか？」と子どもたちに聴くことがよくあります。子どもたちは分かっているが、「はい」と返事をし、その説明という行為が終了します。これは、クラス全体でも個人でもとても大切なことです。まずは、活動や授業のリズムを形成することができるという効果があります。

さらにここからがとても重要なのですが、子どもにとってなかなか素直に飲み込めないような指導をした時、つまり叱った時ですね。そんな時に「はい」と言えることが大切です。特に、教員の指導に対して素直に受け入れることが苦手な子に対して、まずは「はい」と言ってみようという指導がとても大切です。「はい」という返事をする事によって、まずは相手の言うことを受け止めるという行為になるからです。飲み込むと言います。これは「素直さは伸びるコツ」に通じます。指導が届きにくい子は必ずすぐに「だって」「でも」「どうして」といった「D」のつく言葉を発して、自己防御を始めます。そうすると、聞く耳をもつことはできず、厳しいやりとりになってしまいます。そんな子どもに対して、落ち着いているときに、まずは「はい」と言ってみよう、理由や考えは、その後聞くから、言いたいことはそれから言ってみないかい？と指導し、そのことを納得させることができると、その子の態度はずいぶんと変化します。

「はい」という返事一つでも奥深い意味と教育的な効果が含まれているのです。まずは、

「はい」と言える駒本の子どもたちを学校でも家庭でも育てていきましょう。

さらに、「はい」の返事はお腹からです。お臍の下に、臍下丹田という気のツボがあるのをご存じですか？武道ではそこに気をため込むことや意識させることを教えます。臍下丹田にため込んだ気というエネルギーを「はい」という言葉で、放出するということです。ですから、お腹から声を出して「はい」と言えると良いのです。このお腹からの「はい」という返事ができるようになると、またまた子どもたちの態度は大きく変化していきます。ぜひ試してみてください。

運動会の5年6年の組体操の練習に指導に入ったとき、子どもたちは、私たちの指導に精魂を込めた「はい」をしてくれました。その時の顔つきの真剣さはとても素敵でした。そのような素直で前向きの気持ちがあったからこそ、運動会での組体操の大成功があったのだと思います。確実に一つ一つ「力」を付けていく駒本の子どもたちは本当に立派であると思います。

## 「あじさいまつり」で見せた 駒本の力

「あじさいまつり」の鼓笛隊演奏では、保護者のみなさん地域のみなさんの温かい応援や声援を受けて、駒本鼓笛隊は立派な演奏を地域のみなさんに聴いていただくことができました。運動会のすぐ後での取組は、正直子どもたちにとってもきついものであったのかもしれませんが。それでも朝練習を続け、当日のパレードができたことは、駒本の子どもたちの「力」の高さを示しています。



### 努力できる力こそ真の力

「やればできる」とよく言います。しかし、「やらねばできぬ」が真実です。努力すれば、できる力をもっているのに、なかなかその努力ができません。そんな時に子どもたちに伝えたいのが、この「努力できる力こそ真の力」という言葉です。今、成績が良くなくても、スポーツが苦手でも、コツコツと努力した者にいつか追い抜かれていきます。そんな時に「おれは、やればできたのに」と、嘆いてみても後の祭りです。真の能力は努力を怠りなく継続できる力です。野球のイチローやテニスの錦織、卓球の愛ちゃん、たしかに彼らは優れた才能をもっています。しかしながら彼らのすばらしいことは、地道な努力を決して惜しまないということです。その日々の地道な努力があつてこそ、その才能を開花させているのです。どんなに才能があつても努力しないことによって埋もれていく人が多いのです。何事に対しても努力を怠らない人こそ、真の力をもっていると言えるのです。子どもたちの中にも、そんな子がたくさんいます。もう一度、子どもたちを見直して、地道な努力を惜しまない子どもたちを育てていきましょう。